

自己紹介

平成五年十一月以降に昇格又は就任

薬理学教授

桂木 猛



昭和四十八年東北大学大学院博士課程(薬学)を修了し、同医学部応用生理学教室の助手を経て、昭和五十三年福岡大学薬学部での大学院設置に伴い、薬理学教室の講師として採用され、郷里、福岡へ帰って来ました。翌五十四年から二ヶ年、偶然、古川教授の旧友であられた南イリノイ大学薬理のS教授の研究室へ米国心臓協会のフェロシッブを得て留学させて頂き、この時プリン研究に手を染め、以来今日に至っております。帰国後、助教となり、最近滑膜筋などの非神経性

組織からのATP遊離機構の謎解きに熱中していますが、どうやら、IP₃の生成系が一部これに関与しているようです。昨年、ロンドン大学で習得してきた平滑筋の単離培養技術を生かして、今後は、灌流実験を中心に、ATPなどの生理活性物質の遊離メカニズムを細胞レベルで追ってみたいと考えております。先生方には、教育および研究で何かとお世話になりますが、御指導の程宜しくお願い致します。

生化学第一教授

黒木 政秀



昭和五十年(一九七五年)熊本大学医学部卒。卒後研修

一九七四年三月九州大学理学部を卒業後、福岡歯科大学口腔解剖学第一講座へ勤務しました。以後、走査型および透過型電子顕微鏡を用いて非角質化重層扁平上皮の最上層細胞の微細構造、主に、細胞骨格と微細形態に着目して研究を行って来ました。研究当初、暗中模索の中、福岡歯科大学へ非常勤講師として来られていた三好先生に、汚ないデータをよく見ていただき、いろいろご指導を受けました。その後、福岡大学へ出入りさせて頂き、共同研究をさせて頂きましたが、この度、当大学で、勉学の機会を得るに至りました。皆様の指導、鞭撻を宜しくお願ひ致します。

教室紹介

福岡大学解剖学第一

当教室は昭和四十八年四月に開設されました。当初和佐野、田川両教授のもとに教育面では主として肉眼解剖学、神経解剖学を担当し、研究面では比較解剖学的視点より脳血管の神経支配を、組織化学的手法を用いて調べる一連の研究が行われました。当時の教室在籍者は、他大学のスタッフとして、あるいは臨床分野で現在も活躍しておられます。

現在の教室はメンバーも新たになっています。平成

三年十月に宮内亮輔教授が大分医科大学より赴任されました。宮内教授は福岡大学医学部が開設された時、助教として肉眼解剖の教育にあたり、当時、学生であった方々はよくご存知だと思います。その他小川皓一助教、山下信哉助手、教育技術職員二名、研究生一名が在籍しております。

教育の面では、一学年の人体構造概説で骨・筋肉・脈管などの分野を、二学年の解剖学では、主として肉

趣味は野球とアメフトと釣り。学生時代野球部・補手。九山医体優勝・準優勝各一度、西医体優勝二度・準優勝一度、全医体優勝・準優勝各一度の球歴有り。元ライオンズ。現在はホークス・ファン。最近読んだ本、ドクターズ(エリック・シール)、ワイルド・スワン(ユン・チャン)。座右銘、よく学びよく遊べ。

解剖学第二助教授

上原 清子



一九七四年三月九州大学理学部を卒業後、福岡歯科大学口腔解剖学第一講座へ勤務しました。以後、走査型および透過型電子顕微鏡を用いて非角質化重層扁平上皮の最上層細胞の微細構造、主に、細胞骨格と微細形態に着目して研究を行って来ました。研究当初、暗中模索の中、福岡歯科大学へ非常勤講師として来られていた三好先生に、汚ないデータをよく見ていただき、いろいろご指導を受けました。その後、福岡大学へ出入りさせて頂き、共同研究をさせて頂きましたが、この度、当大学で、勉学の機会を得るに至りました。皆様の指導、鞭撻を宜しくお願ひ致します。

動の神経機構の解明を試みましたが、この研究は、実験系が複雑すぎて幾度となく止めようと思いましたが、一応論文にまとめることが出来た。そして、予定通り薬理学教室に戻りました。その後、今日まで電気生理学的方法を使って、主に受容体のシグナル伝達機構を研究致しております。院生の後半二年と医員の二年間は、GABA受容体の研究を行いました。帰国後は、薬理の医員として副腎髓質細胞のムスカリン受容体の研究を開始致しました。四年前からこちらの生理学第一講座にお世話になっております。皆様の指導、鞭撻を宜しくお願ひ申し上げます。

病理学第一助教授

竹下 盛重



昭和五十五年福岡大学医学部を卒業。二年間の内科研修後福岡大学第一病理にお世話になり早二二年になります。はじめは班会議や学会などにテーマをかえり病態、ATL、AID、型下細胞リンパ腫の臨床病態像を検討させて頂いてまいりましたが、段々とすることが単調になり興味が薄くなって来ておりました。この時に幸いにもドイツ、フランクフルト大学、H. J. Stube教授のもとに留学させて頂き、ホジキン病、B細胞リンパ腫を見させて頂きました。十分に使える時間の中で同疾患の標本を見させて頂き、ATLに比較し何と華々しい反応細胞があり、また腫瘍形成傾向が強いのかと初めて見た様な感動でした。このような感動を持続し悪性リンパ腫の反応細胞の分布や特殊な腫瘍形成傾

向の強いT細胞リンパ腫の臨床病理学的検討、血管反応や反応細胞が著明なT細胞リンパ腫の検討を行い現在に及んでいます。このなかで置き忘れていた認識がなんと多いのかと感じ、その解決のため奮闘しております。私は臨床病理を旨としていますが、いつも新しい概念がATL以外から入ることが多く、憤りを感じております。私が講座には名前を疾患にいたでいます。菊池教授がおられますが、その下で働いているのを恥じないよう新しい疾患概念はないかと、ない頭をしょり日々苦悶しております。機会あればご指導、ご協力を賜りたいと思っております。福岡大学医学部も早二十三年目を迎えました。卒業生一人一人が参加することが非常に困難な状態ではありますが、福大医学部、病院がいかにか脱皮するかを考える時期に来ている気がしますが、卒業生一人一人として、非力ではありますが卒業生、在校生、医学部間の接点になり頑張りたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

皮膚科学助教授

古賀 哲也



昭和五十六年九州大学医学部を卒業後、九州大学皮膚科占部治邦教授のもとに入局し、二年間の研修後、九州大学生体防御医学研究所免疫学部門の野本亀久雄教授のもとで、主に感染防御について、光山正雄先生(現在新潟大学医学部細菌学教室教授)と一緒に研究させて頂きました。福岡大学では胃の外科を含め、この特徴をさらに伸ばして行きたいと考えています。皆様の御指導鞭撻を宜しくお願ひ致します。

いての研究に従事する機会を得ました。帰国後は、佐賀県立病院好生館を経て、九州大学皮膚科堀嘉昭教授のもとで、皮膚科の臨床や皮膚真菌感染症に対する生体防御や皮膚アレルギーについての研究を行ってまいりました。今迄多くの素晴らしい先生方のもとで指導していただいた事に感謝しております。今後は開かれたわがやうい皮膚科学を念頭に置き、さらに福岡大学の特徴を生かせるように診療と研究に精進しようと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

外科学第二助教授

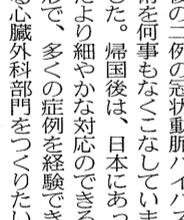
山下 裕一



昭和五十一年久留米大学を卒業。北米での心臓外科は、かつてフォードが始めた車の大量生産を思い起こさせるように、一つの手術台で午前午後二例の冠状動脈バイパス術を何事もなくこなしてまいりました。帰国後は、日本にあつたより細やかな対応のできる形で、多くの症例を経験できる心臓外科部門をつくりたいと考えて今まで努力してまいりました。今回福岡大学にお世話になるに当たり、皆様の御理解とご指導、鞭撻をよろしくお願ひ致します。

心臓血管外科助教授

田代 忠



昭和五十一年鹿児島大学医学部卒業。同年久留米大学医学部第二外科入局。四年間の一般外科、心臓血管外科のトレーニングを受けたのち二年間の研究室勤務(人工心肺、心筋保護業務)。昭和五十七年より平成六年までの十一年間を聖マリア病院胸部心臓血管外科に勤務し、心臓血管外科の第一線の診療に従事する機会を得ました。またその間にカナダの Toronto General Hospital 心臓血管外科の Clinical Fellow として心臓血管外科の臨床に携わる機会を得ました。北米での心臓外科は、かつてフォードが始めた車の大量生産を思い起こさせるように、一つの手術台で午前午後二例の冠状動脈バイパス術を何事もなくこなしてまいりました。帰国後は、日本にあつたより細やかな対応のできる形で、多くの症例を経験できる心臓外科部門をつくりたいと考えて今まで努力してまいりました。今回福岡大学にお世話になるに当たり、皆様の御理解とご指導、鞭撻をよろしくお願ひ致します。

教授のもとで細胞生物学の基礎と物事を探求する喜びを教えていただきました。その後オハイオ州のクリーブランドにあるケースウェスタンリザーブ大学にて発作性夜間血色素尿症の生化学的、分子生物学的な発症機序についての研究を行いました。競争研究も多々苦勞も絶えなかったこの留学での最大の収穫は、その研究成果もさることながら、なによりも大切なものがいろいろな人との出会いであり経験であると気づいたことのように思えます。

平成四年から小田教授の快諾をいただき、福大病院小児科に戻って参りました。今後は基礎医学での経験を病気の予備に還元できたらと思っております。また小児科医を志す人が少ない昨今、自分自身も常日頃感じている小児科の楽しさ、奥の深さを後進の方々にも知ってもらえるよう努力したいと思っております。

久しぶりの大学病院勤務にもかかわらず、懐かしい方々に親切にしてください。まさに我が家に戻ったようで、母校で働ける喜びをかみしめております。この場を借りて皆様にお礼を申し上げます。よりよろしく御指導の程、お願ひ致します。



小児科講師

廣瀬 伸一



昭和五十五年福岡大学医学部を卒業後、まず小児科に入局し小田教授のもとで一般小児科の基礎と小児科臨床のおもしろさを学びました。つきに第二生化学教室の池原

福岡県行橋市に生まれ、高校時代まで故郷で過ごし、昭和五十三年に鳥取大学医学部を卒業し、九州大学第一外科に入局。四年間の臨床経験の後、九大一外科の胆道・膵疾患内視鏡グループで研究生活を過ごし、再度、第一線病院で臨床を行い、平成四年十月より福岡大学第一外科に勤務しております。特に胆道・膵の悪性疾患に興味を持っ

昭和五十七年に福岡大学医学部を卒業後、泌尿器科教室に入局。二年間坂本公孝教授のご指導を受けた後、三好萬佐行教授の下で大学院生活を送りました。大学院では尿路の先天異常に関係がありましたので、尿管の筋層構築を走査電顕で観察しました。昭和六十三年大学院卒業後は泌尿器科に助手として採用していただきました。平成三年より坂本教授のご配慮で二年間福岡徳洲会病院で臨床経験を積み機会を与えていただき、大森章男部長の下でESWLを中心とした尿路結石の治療と内視鏡手術を主にやらせていただきました。医学部を卒業以来どこにいても良き指導者、良き先輩に恵まれるのびやらせていただきました。したが、研修医諸君に自分が同じことをしてあげられるかどうか疑問です。まだまだ未熟で皆様方にご迷惑をおかけいたしますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

第八十八回 医師国家試験

合格者と入局先

平成六年三月十九日、二十日に行われた第八十八回医師国家試験に本学から百四十七名が受験し、百十八名が合格した。合格率は八〇・三%であった。	田中 俊裕 外科一	田中 美紀 小児科	田上 寛容 産科婦人科	田村 理子 産科婦人科	村上 典江 内科一	土持 雅昭 産科婦人科	東條 秀明 内科一	徳永 晃 内科一	徳永 祐介 内科一	鳥越 雄史 長大整形外科	中村嘉一郎 外科一	永田貴子 産科婦人科	長濱 孝 産科婦人科	鍋山健太郎 外科一	西村 宏達 内科一	西山 昌宏 内科一	野崎正太郎 命救急	野田 尚孝 外科一	長谷川善之 腎センター	林 修司 外科一	東 桂子 産科婦人科	久部 高司 産科婦人科	深水 詩生 小児科	福島 敬修 産科婦人科	本田 咲子 産科婦人科	本田 晶子 産科婦人科	益崎まゆみ 小児科	丸田 美穂 産科婦人科	石田 博敬 産科婦人科	滝尾 雅彦 産科婦人科	三宅 夕美 産科婦人科	宮島 博子 産科婦人科	村川 弘 産科婦人科	安田 智生 産科婦人科	荒武まり子 産科婦人科	山口 圭子 産科婦人科	山崎 圭 産科婦人科	山田 徹 産科婦人科	山本 純也 産科婦人科	横山 裕 産科婦人科	吉村 一朗 産科婦人科	石橋 憲吾 産科婦人科	神宮司多門 産科婦人科	田中 洋一 産科婦人科	萩本 龍伸 産科婦人科	福井マナミ 産科婦人科	藤崎 大整 産科婦人科	宮川 孝 産科婦人科	村井 映 産科婦人科	渡辺 伸彦 産科婦人科
--	-----------	-----------	-------------	-------------	-----------	-------------	-----------	----------	-----------	--------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------------	----------	------------	-------------	-----------	-------------	-------------	-------------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	------------	------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	------------	-------------

教室 便り

学位取得

新居見和彦(小児科学) 福岡大学に提出。平成五年十一月十二日付で医学博士と授与。

論文名 “Glucocorticoid-induced changes in the quantity and secretory capacity of individual rat somatotropes.”

次の方は、平成六年三月二十三日付で、福岡大学より医学博士を授与された。

衣笠 哲史(生化学第二) 論文名 “Non-protolytic release of carcinoembryonic antigen from normal human colonic epithelial cells cultured in collagen gel.”

桑原 謙 熊本日本赤病院 江口 靖 皮膚科

川端 温 耳鼻咽喉科

赤松 晴樹 産科婦人科

内田浩太郎 産科婦人科

恵美加奈子 産科婦人科

黒岩 大三 放射線科

桑野 隆史 産科婦人科

末廣三岐代 産科婦人科

留守 良太 産科婦人科

中村 佳代 産科婦人科

中村 公紀 産科婦人科

永井由紀子 産科婦人科

巻幡 聡 産科婦人科

吉野慎一郎 救命救急

岩佐 二郎 精神科

道祖尾直知 耳鼻咽喉科

茶幡 伸 産科婦人科

角光 茂 産科婦人科

牟田 仁彦 産科婦人科

安武 正陽 産科婦人科

田上 彰隆 産科婦人科

北島 竜夫 産科婦人科

長森 昭美 産科婦人科

花田 弘文 産科婦人科

牧 謙太郎 産科婦人科

吉田 成宏 産科婦人科

海外留学

平成五年十一月以降の海外留学者または海外から本学へ留学者は以下のとおり。

① 研究目的の期間 ② 所属 ③ 学術交流

井手口 裕(産科婦人科) 平成六年公益信託臨床病理学研究会「赤血球膜蛋白質異常症における分子異常の解析と遺伝子診断法の開発」

志賀 宗祐(眼科) 論文名「網膜光凝縮における局所血液網膜の破綻」

武末 佳子(眼科) 論文名「屈折手術に使用するシエルの角膜に対する生体適合性に関する形態学的研究」

原田 博文(耳鼻咽喉科) 論文名「二オキメチルに対する脳波変動の定量化および空間分布に関する基礎的研究」

坂田 俊文(耳鼻咽喉科) 論文名「耳閉塞感の臨床的研究—その客観的評価と矯正療法の検討—」

鐘江重宏(泌尿器科) 論文名 “Metabolic abnormalities of the intestinal urinary diversion.”

北城 亨文(泌尿器科) 論文名「腎移植における灌流・冷却保存液へのホスホノールビルリン酸の応用」

井上 真澄(生理学第一) 上原記念生命科学財団研究奨励金

研究業績「G蛋白質を介する非選択的カチオンチャネルの活性化機構の解明」

レジーナ マリア 眞智恵 安永 (公衆衛生学)

福岡大学学紀要第20巻優等賞

研究業績「Sao Paulo州の死の構造—日本の比較—」

江口 冬樹(産科婦人科) 福岡大学学紀要第20巻優等賞

研究業績「Polymerase Chain Reaction(PCR)法による Human Papillomavirus(HPV) DNA 検出—子宮頸部擦過細胞を用いて—」

伊崎 輝昌(整形外科) 論文名「上腕二頭筋関節唇に好中球の活性化と動態の関与について」

荒木 敬一(内科学第二) 論文名 “Characterization of two new apolipoprotein A-I variants: apolipoprotein A-I-Tsushima (Trp¹⁰⁸ Ala⁸⁸ Asp).”

平塚 俊樹(内科学第二) 論文名「IgA腎症」特にその臨床所見及び病理学的重症度とHLA class II ASの相関について」

道永 功(内科学第二) 論文名「HLA-DQB1*0604と悪性腫瘍を発生させた日本人慢性腎不全患者との相関」

三浦伸一郎(内科学第二) 論文名 “Changes of renal kallikrein-kinin system by mild exercise therapy for hypertensives.”

千手 昭司(内科学第二) 論文名「肺気腫症における運動時換気、ガス交換の障害とそのメカニズム」

星子 浄水(内科学第一) 論文名「Crohn 病の活動度の定量的評価—新しい活動指数の提唱—」

江口 靖 皮膚科

川端 温 耳鼻咽喉科

赤松 晴樹 産科婦人科

内田浩太郎 産科婦人科

恵美加奈子 産科婦人科

黒岩 大三 放射線科

桑野 隆史 産科婦人科

末廣三岐代 産科婦人科

留守 良太 産科婦人科

中村 佳代 産科婦人科

中村 公紀 産科婦人科

永井由紀子 産科婦人科

巻幡 聡 産科婦人科

吉野慎一郎 救命救急

岩佐 二郎 精神科

道祖尾直知 耳鼻咽喉科

茶幡 伸 産科婦人科

角光 茂 産科婦人科

牟田 仁彦 産科婦人科

安武 正陽 産科婦人科

田上 彰隆 産科婦人科

北島 竜夫 産科婦人科

長森 昭美 産科婦人科

花田 弘文 産科婦人科

牧 謙太郎 産科婦人科

吉田 成宏 産科婦人科

リサーチビジター

①所属 ②目的 ③期間 ④訪問先

文 富強 (Wen Fuqiang)

①中国、四川成都都郵医院 呼吸内科主治医師②肺気腫症及び間質性肺疾患の病因治療に関する研究③平成六年四月一日〜平成七年三月三十一日 ④内科学第二教室

日本医事新報社③一九九四・二〇〇四/〇〇〇円

▽荒川規矩男(内科学第二) ①循環器 NOW No.5 (分担)②南江堂③一九九四・三・一五④七、五〇〇円

▽西園昌久(精神医学)①神経症・人格障害(分担)②中山書店③一九九四/八、七〇〇円

▽瀧留昭久(小児科学)①末梢神経・筋機能検査 佐藤 潔他編「胎児・新生児の神経学」(分担)②メテカ出版③一九九三/二〇〇〇円

▽瀧留昭久(小児科学)①神経筋疾患 佐藤潔他編「胎児・新生児の神経学」(分担)②メテカ出版③一九九三/二〇〇〇円

▽小田禎一(小児科学)①リウマチ熱・リウマチ性心炎 瀧留昭久他編「今日の小児治療」(分担)③一九九三/二、五〇〇円

▽岡崎正敏(放射線医学)①Hepatic Artery Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma. (分担) Pitfalls and Complications in the Diagnosis and Management of Hepatobiliary and Pancreatic Diseases Surgical, Medical and Radiological Aspects © Georg Thieme Verlag Stuttgart・New York Theme Medical Publishers, Inc. New York ③一九九三/四、四三三円

▽曾田豊二(耳鼻咽喉科)①音響性聴覚障害—その基礎と臨床—(志多亨 野村恭也編) 環境騒音と聴力(分担)②金原出版③一九九三/二、四〇〇円

▽森園哲夫(耳鼻咽喉科)①Cholesteatoma and Mastoid Surgery (Ed. Y. Nakano), Structural development of the supratubal recess (分担)③Kagler Publication, Amsterdam, New York ③一九九三/一〇、〇〇〇円

▽森園哲夫(耳鼻咽喉科)①Recent advance in Otitis media (Eds. Lim, et al.), Difference in susceptibility to otological drugs between cats and chinchillas. (分担)③Decker Periodicals ③一九九三/100\$

▽坂本公孝(泌尿器科)①今日の治療指針一九九四(分担)②医学書院③一九九四/一、七〇〇円

▽檀健二郎(麻酔科)①癌性疼痛コントロール(分担)②南江堂③一九九三・一一・二〇④五、五〇〇円

▽大久保久美子(臨床検査医学)①糖尿病と妊娠・出産 妊娠前管理(名和田新、梅田久夫編)糖尿病合併症 Q&A(分担)③南江堂③一九九三/三、五〇〇円

新刊紹介

福岡大学学友会が、執筆した著書または単行本を以下紹介する。①書名 ②発行所 ③発行年 ④価格

①今永一成(生理学第一) The Cardiomypathic Heart (分担)② Raven Press ③一九九四/二、一五〇円

②菊池昌弘(病理学第一) 監修①病理と臨床 vol.12 臨時増刊号 リンパ節病変 ②文光堂③一九九四・四・一④八、〇〇〇円

③菊池昌弘、竹下盛重、大島孝一、住吉慶明(病理学第一) 宮本祐一(佐賀好生館病院病理部)①病理と臨床 vol.12 臨時増刊号 リンパ節病変 ②非ホジキンリンパ腫 各論③VIホジキン病④Xリンパ節の反応性⑤炎症性病変(分担)⑥文光堂③一九九四・四・一④八、〇〇〇円

④大島孝一(病理学第一)①図説臨床(癌)シリーズ No.17 白血病 リンパ腫 第3章 リンパ系腫瘍 ②診断 update ③病の疾患概念 update (分担)④メカロン社③一九九四

⑤佐々木淳、荒川規矩男(内科学第二)①新版 肥満の臨床医学(分担)②朝倉書店③一九九三・一一・一④七、四一六円

⑥荒川規矩男(内科学第二)①運動療法ガイド 正つた運動処方方々を求めて(分担)②

編集後記

梅雨入り後、異常に寒い日が続いたかと思いきや、その合間には真夏のような高温になるなど、気候不順で体調を崩しがちである。その故に日本の政治も経済も不順が続いて、我が日本も沈没寸前という行方不明な状態である。

福岡大学では、国試合格率が現役組の好成績で、昨年の惨敗以来沈みかたがた、諸先生方も僅かに愁眉を開いたかと思われる。

よほごえ、内憂外患が山積みしている今日この頃、安閑とはしていられない。カリキュラムの大幅改正、内科問題など、重要な事項が行先も定まらず漂っている。

本紙の発行はギリギリと太陽が照りつける真夏になるまで、その頃には針路が定まってくるであろう、さよなら、(S・K) ヨーロー。

に因る検討

伊崎 輝昌(整形外科) 論文名「上腕二頭筋関節唇に好中球の活性化と動態の関与について」

荒木 敬一(内科学第二) 論文名 “Characterization of two new apolipoprotein A-I variants: apolipoprotein A-I-Tsushima (Trp¹⁰⁸ Ala⁸⁸ Asp).”

平塚 俊樹(内科学第二) 論文名「IgA腎症」特にその臨床所見及び病理学的重症度とHLA class II ASの相関について」

道永 功(内科学第二) 論文名「HLA-DQB1*0604と悪性腫瘍を発生させた日本人慢性腎不全患者との相関」

三浦伸一郎(内科学第二) 論文名 “Changes of renal kallikrein-kinin system by mild exercise therapy for hypertensives.”

千手 昭司(内科学第二) 論文名「肺気腫症における運動時換気、ガス交換の障害とそのメカニズム」

星子 浄水(内科学第一) 論文名「Crohn 病の活動度の定量的評価—新しい活動指数の提唱—」

江口 靖 皮膚科

川端 温 耳鼻咽喉科

赤松 晴樹 産科婦人科

内田浩太郎 産科婦人科

恵美加奈子 産科婦人科

黒岩 大三 放射線科

桑野 隆史 産科婦人科

末廣三岐代 産科婦人科

留守 良太 産科婦人科

中村 佳代 産科婦人科

中村 公紀 産科婦人科

永井由紀子 産科婦人科

巻幡 聡 産科婦人科

吉野慎一郎 救命救急

岩佐 二郎 精神科

道祖尾直知 耳鼻咽喉科

茶幡 伸 産科婦人科

角光 茂 産科婦人科

牟田 仁彦 産科婦人科

安武 正陽 産科婦人科

田上 彰隆 産科婦人科

北島 竜夫 産科婦人科

長森 昭美 産科婦人科

花田 弘文 産科婦人科

牧 謙太郎 産科婦人科

吉田 成宏 産科婦人科

石西 貴(整形外科) 論文名 “The Effect of Total Knee Arthroplasty on Lateral Retinacular Strain.”

志賀 宗祐(眼科) 論文名「網膜光凝縮における局所血液網膜の破綻」

武末 佳子(眼科) 論文名「屈折手術に使用するシエルの角膜に対する生体適合性に関する形態学的研究」

原田 博文(耳鼻咽喉科) 論文名「二オキメチルに対する脳波変動の定量化および空間分布に関する基礎的研究」

坂田 俊文(耳鼻咽喉科) 論文名「耳閉塞感の臨床的研究—その客観的評価と矯正療法の検討—」

鐘江重宏(泌尿器科) 論文名 “Metabolic abnormalities of the intestinal urinary diversion.”

北城 亨文(泌尿器科) 論文名「腎移植における灌流・冷却保存液へのホスホノールビルリン酸の応用」

井上 真澄(生理学第一) 上原記念生命科学財団研究奨励金

研究業績「G蛋白質を介する非選択的カチオンチャネルの活性化機構の解明」

レジーナ マリア 眞智恵 安永 (公衆衛生学)

福岡大学学紀要第20巻優等賞

研究業績「Sao Paulo州の死の構造—日本の比較—」

江口 冬樹(産科婦人科) 福岡大学学紀要第20巻優等賞

研究業績「Polymerase Chain Reaction(PCR)法による Human Papillomavirus(HPV) DNA 検出—子宮頸部擦過細胞を用いて—」

伊崎 輝昌(整形外科) 論文名「上腕二頭筋関節唇に好中球の活性化と動態の関与について」

荒木 敬一(内科学第二) 論文名 “Characterization of two new apolipoprotein A-I variants: apolipoprotein A-I-Tsushima (Trp¹⁰⁸ Ala⁸⁸ Asp).”

平塚 俊樹(内科学第二) 論文名「IgA腎症」特にその臨床所見及び病理学的重症度とHLA class II ASの相関について」

道永 功(内科学第二) 論文名「HLA-DQB1*0604と悪性腫瘍を発生させた日本人慢性腎不全患者との相関」

三浦伸一郎(内科学第二) 論文名 “Changes of renal kallikrein-kinin system by mild exercise therapy for hypertensives.”

千手 昭司(内科学第二) 論文名「肺気腫症における運動時換気、ガス交換の障害とそのメカニズム」

星子 浄水(内科学第一) 論文名「Crohn 病の活動度の定量的評価—新しい活動指数の提唱—」

江口 靖 皮膚科

川端 温 耳鼻咽喉科

赤松 晴樹 産科婦人科

内田浩太郎 産科婦人科

恵美加奈子 産科婦人科

黒岩 大三 放射線科

桑野 隆史 産科婦人科

末廣三岐代 産科婦人科

留守 良太 産科婦人科

中村 佳代 産科婦人科

中村 公紀 産科婦人科

永井由紀子 産科婦人科

巻幡 聡 産科婦人科

吉野慎一郎 救命救急

岩佐 二郎 精神科

道祖尾直知 耳鼻咽喉科

茶幡 伸 産科婦人科

角光 茂 産科婦人科

牟田 仁彦 産科婦人科

安武 正陽 産科婦人科

田上 彰隆 産科婦人科

北島 竜夫 産科婦人科

長森 昭美 産科婦人科

花田 弘文 産科婦人科

牧 謙太郎 産科婦人科

吉田 成宏 産科婦人科